

2026/2/9

非認知能力

～『自分で考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

「少し先」をイメージする力が未来をたぐり寄せる

受験シーズンは今が正念場。3年生は私立大入試の真っ只中、1・2年生は学年末考査の真っ只中。今、目の前のことに全力を注ぐのは当然ですが、一歩差をつけるのは「少し先の自分」を具体的にイメージできる力です。(編集 教頭)

■1,2年生へ

I 考査の頑張りは「一石二鳥」の自己投資

①「評定」という武器を手に入れる(評定を上げる)

学年末考査は1年間の成績を締めくくる重要な指標です。1,2年後の進路実現に向けて評定平均が使えるように一点でも多く取る勉強をしましょう。

②「受験範囲」を今のうちに潰す(入力する)

定期考査の範囲は、1,2年後の大学受験の出題範囲です。ここで理解しておくことは進路実現できる確率が格段に上がることに繋がります。先を見据えて一つでも多く理解しましょう。



II 考査後の2月・3月はどう動く?

→高校入試の関係で授業が止まるこの時期こそ、「復習の鉄板」期間です

2年生もう「受験生」です。共通テストまで1年を切っています。英語、国語は共通テストの範囲を終了しています。つまり、「読解」のためのアイテム(単語、文法、構文)はもう既習済ということです。「読解」のためのアイテムを使って初見の文章を「読解」していくわけです。「読解」のためのアイテムが全て入っていますか? 少し先を想像してください。この後部活が佳境を迎える、英国数学以外の科目も仕上げていなければならない…そうになると、この2,3月で英単語、文法、古文単語、漢文の句法、現代文の読解法などは使えるように入れておく必要があると理解できるはずです。数学も、演習で使う基本パターンをしっかりと入れておきたい。「使える状態」に仕上げる。合格へ最短ルートで行きたいなら、これが「少し先の」2,3月にやるべきことです。

1年生大学受験を見据えた時、勉強のペースを上げなければなりません。周りのライバルに遅れをとることは避けなければなりません。「英・国・数」で、足りないところを埋めましょう。勉強のペースを一段階上げましょう。

■3年生へ

→ラストスパート…突き抜けてやる! という強い気持ちと最後まで粘る気持ち

I 「最後まで受け切る」を常に心に留めること

2026 一般入試の傾向を理解して行動する

定員厳格化の影響で私立入試は、厳しい戦いになると予想されます。うまくいかなくても、折れずに、あきらめずに、投げやりにならずに、最後まで戦い抜くこと。受け切っ



た後、合格した中から進学先を選べばいい(「選ばない、すなわちもう一年頑張る」という選択も含めて)。

「私立が厳しいのでは」ということで、国公立組も「最後まで国公立を頑張る」という流れになっている。その流れにくらいつく。前南生から「イチ抜けた(諦めた)」をしてはダメ。国公立も中期、後期までしっかり受ける。

なぜなら、中期・後期は何が起こるかわからないから

国公立後期試験の欠席率は50%を超える大学も多い。E判定だった生徒が県女後期を諦めずに受けた結果、倍率が1.5倍まで下がり逆転合格したり、高経大後期に共通テスト得点率46.3%の生徒(もちろんE判定)が小論文のテーマがズバリ当たって逆転合格したり、と数多くの逆転例を見てきています。逆転合格した生徒の共通点は「後期受験した」ということ、そして「受かる確率を上げる勉強をした」ということです。

私立大学も中期(2月後半)、後期入試(3月)を視野に ※国公立の中期・後期試験とは違います

GMARCHクラスで後期入試があるのは立命館くらいですが、日東駒専あたりは中期・後期入試があります。定員が少ないのでどのくらい取れば合格するというものがなく、運に左右される面がありますが、受かりやすいのは中期です。なぜかというと、中期入試の出願締め切りは2/10あたりで、このあたりはMARCHの入試期間なのでそのレベルの受験生が中期入試のことまで考えられていなく(出願せず)、つまり上位層が受けてこない確率が高いからです。後期入試も私大専願組は「もういいや」と3月まで気持ちが持たない受験生も多く、やはりあきらめなければチャンスがあります。日東駒専の2月入試全落ちで、3月入試で専修大学に合格した生徒、明治学院に合格した生徒が過去の教え子でいますからね、あきらめない！

Ⅱ その他の「この時期の心構え」～少し先をイメージしよう～

①国公立2次試験、合否を分けるのは…シンプルに「学力」

当たり前ですが、それは「学力」です。小論文も面接も数をやればやるほど洗練されていきます。だから、「受かるかな…」と不安になって勉強が手に付かない受験生より、ガンガン知識を積み重ねていく受験生の方が受かります。とてもシンプルです。考えて不安になって立ち止まっている生徒がいたら、後2週間、ガンガン知識を積み重ねましょう。ビックリするくらい合格に近づいていきます。みんなは挑戦者。迷ったら「一歩前へ」。

②受験の結果は合否にかかわらず、「すぐに」「こまめに」学校に連絡をする

不合格だった場合、次にどうするかなどのアドバイスができるからです。不合格だった場合、当然落ち込むし投げやりになりがちです。将来を決める大事な勝負の時、決断の時です。投げやりな状態で進学先を決めてしまうともったいないケースが往々にしてあります。そういう時、学校に相談をしてください。連絡をくれれば、次にどう動くべきか、まだ受けられる大学の紹介、心の持って行き方など、話をしてやれることがあります。

③もう一年受験を頑張る生徒→大事ななのは「今年、最後まで受けること」

「来年、後期まで受ける受験の流れ、どのくらいしんどいのか」を経験しなくてどうする？そして、今この時期一番学力をつけられるわけだから、「来年受けるから受験勉強は予備校の始まる4月からでいい」はもったいない。2次に向けた最後の追い込みをする今の流れに乗って勉強すれば学力がつき、来年度4月、現役生に一歩リードした状態で浪人生になれる。第一志望に受かるために浪人するんでしょ？「受かる動き」をしましょう。